

リハビリテーションセンターは こんな活動をしています

リハビリテーションセンターでは、特定の疾患や障がいにかかるリハビリテーションへの取り組みについて、医療部門と支援部門でチームを組んで活動をしています。今回は、脊髄損傷に取り組んでいるチームの紹介です。



脊髄損傷チーム

交通事故やスポーツ事故、病気などによって、首や背中にある脊椎と、その中心を通っている神経が損傷されることにより、手足や体、または足のみが動かなくなり突然車いす生活を余儀なくされる障がいです。

昨日までは歩いていたのに、突然歩けなくなったりします。そのことで、精神的なショックも大きく、日常生活が一人でできるようになっても、なかなか周りに心が開けなかったり、外出がおっくうになったりします。

脊髄損傷チームでは、脊髄損傷になられた方が、1日でも早く社会参加が行えるように、他の関係機関と協力しながら、チームとして何が出来るかを日々模索しています。

具体的には、社会参加のきっかけ作りの場として、脊髄損傷者の方を対象とした外出、宿泊体験、スポーツ体験などを開催しています。また、より良い支援が提供できるようなチームで集まり勉強や調査(研究)なども行っています。



回復期リハビリテーション病棟ってなんだ!?

回復期リハビリテーションは、疾病や事故により障がいがあっても残された能力でその後の生活を自立していく力が必要な患者さんを対象に受け入れます。多くの医療専門職がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。リハビリテーションセンターには40床の回復期リハビリテーション病棟があります。

では、他の病棟とどんなところが異なるのでしょうか。

回復期病棟では、杖や車いす、歩行器など福祉用具を積極的に使っています。訓練室でのリハビリも重要ですが、家に帰ってからの生活を考えながら入院生活を過ごすことも重要です。

生活をしていると以前と同じように出来る事もあれば、出来なくなってしまったこともあります。

そこで、福祉用具は、出来なくなってしまった身体の機能を補う目的で導入されます。その人の身体や生活に合った福祉用具を使うことで、行いにくい動作が出来るようになることもあります。

そうすると、福祉用具も単に道具ではなく、生活の一部として考えていく必要があり、自分の身体や生活に合った福祉用具と出合えることで生活が豊かになります。



Part 3

なんで一人一人
違う種類の福祉用具を
使っているの!?

編集後記

今年度は自己実現をテーマに誌面を作成しました。

少しでも皆さんのしたいことが続けられる工夫を今後も取り上げたいと思います。

担当：宮本・山原

この印刷物は古紙パルプを配合しています。

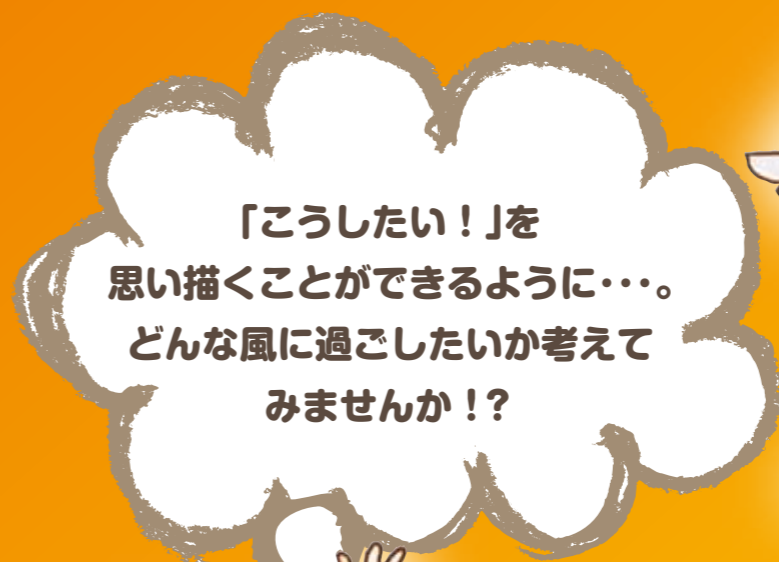
特集

続・人生や生活を楽しむ

～自分のやりたいことが実現できるように～

和み

Vol.23/2012
March.



【編集・発行】滋賀県守山市守山五丁目4-30 滋賀県立リハビリテーションセンター(成人病センター内)

【ホームページ】<http://pref-shiga-rehabili-c.hs.plala.or.jp/>

【連絡先】TEL 077-582-8157 / FAX 077-582-5726

e-mail ef4701miyamoto_masahiro@pref.shiga.lg.jp

「自分でするリハビリ」サポート

リハビリテーションセンターでは、お年寄りや障がいのある方が住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう「自分でするリハビリ」を応援しています。

いつまでも自分のしたい生活が続けられるためには、単純に運動や身体作りをするだけでなく、生活の中で自分なりの生活目標を見つけることができるよう、地域活動に参加できるための環境作り(町づくり)が必要です。

街ではたらく! 自分は無理?決してそうじゃない!



したいことをいつまでも…。馬がつないでくれる人の輪が生きがいに。

Tさん 3年前に大腿骨を骨折したTさんは今年で90歳。歩くには杖が手放せないが、杖と同じくらい手放せない馬たちに囲まれて生活をする現役の牧場主。

若いころから馬の世話をする生活をしてきた。

若い頃は自分で馬を育て、馬にまたがる日が日常だったが、年をとり最近では、馬術大会やお祭りに乗ってもらう馬の世話をしていた。

そんな折、転倒し大腿骨を骨折、入院生活を余儀なくされた。退院して自宅に帰ってきた時は、杖が手放せず、ヘルパーサービスや訪問看護が入り、「もう馬は飼えない」と失望していた。



不自由があっても出来ることから…。

しゃがめないし、杖を手放すことは出来ないが、立ちながらでもエサをやるだけならできると、老人車を押し、こけないように恐々エサやりだけの世話を続けた。

しかし、馬糞の掃除や定期的に馬に運動をさせることは出来なかった。

みんなが支えてくれる!

困りはてていた頃、昔からの馴染みの仲間が馬に運動させるために来てくれるようになった。また、馬小屋の掃除も訪問看護のご縁からボランティアで手伝ってくれる人たちがでてきた。

家から外出すれば、ご近所さんが「若い人が手伝ってくれていいねえ」と声をかけてくれる。ボランティアの人たちが馬の世話にすれば、心配になって思わず外出してしまう機会が増えた。

「あと2年は寿命が延びたわ!」と満面の笑みがこぼれる。



街へでかける! バリアフリーへの取組は進んでいるの?

バリアフリーと町の人々のハートをみつける!

はじめは小学校の取組から!

車いすで学校に通う小学生と、同じクラスの友だちが中心となって、学校周辺のバリアフリーマップを作成したことをきっかけに車いすハート探検隊が結成されました。



宿泊施設の調査に同行してきました!

車いすハート探検隊の取組

県内の商業施設や駅、公共施設などを車いすで訪問し、障がいのある人に必要な情報を発信しています。これまでに、トイレマップや避難所ガイドマップの作成にも関わってきました。

障がいのある人もない人も一緒に旅をしたり、調査活動に取組むことで、お互い新たな気づき生まれ、人と人がつながっていきますね。

チェックする内容は、交通アクセス、駐車場、バリアフリールーム、一般客室、宿泊料金、パブリックスペース、レストラン、大浴場、などです。

チェック項目は…

お部屋

- ・入口の段差の有無
- ・ドアの幅の広さ
- ・通路の広さ

トイレ

- ・ドアの幅の広さ
- ・入口の段差の有無
- ・便器と周囲の壁やドア等への距離



浴室

- ・ドアの幅の広さ
- ・入口の段差の有無
- ・浴室の広さ

洗面

- ・ドアの幅の広さ
- ・入口の段差の有無



バリアフリー観光 WEB サイト

調査結果は、報告書を作成したり、県内バリアフリー情報を掲載しているインターネットサイト「ばりかん!滋賀」に掲載しています。

この活動で得られた情報をもとに、皆さんが、滋賀県で観光を楽しんでいただけるきっかけになれば幸いです。

ホームページはこちら

→<http://www.barikan-shiga.net/>